

科目名		設計製図A			
担当教員		三留 正		実務授業の有無	○
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、学ぶことで図面の必要性を理解し、簡単な図面が掛け、記号など、作成する実習 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 製図の基礎を中心に見方、描き方を解説・演習する。 3. 条件に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 4. 最終的には、木造住宅の製図、炉計図課題を作成し、評価、解説を行う				
学習目標 (到達目標)	建築製図の基本から学びます。建築業界での基本の木造住宅に必要な図面を読み取ることができ、テキストに沿ってトレース(書き写す)する事ができる様になる。図面を書くことにより、建築構造の各所名称も同時に覚えていく事を目的とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①初学者の建築講座 建築製図第3版(市ヶ谷出版)				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	製図の基本ー1 ①各種製図用具の名称・役割・使い方 ②平行定規の扱い方 ③図面の種類や図面の意味線の引き方 ④線の練習	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、課題等で使う道具の役割を説明。①～②の項目を理解し適正に使用することができる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
2	製図の基本ー2 ①文字の練習 ②線の練習	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
3	配置図兼1階平面図、2階平面図ー1 ①平面図の概略。 ②敷地境界線→1階壁中心線→2階壁中心線→柱→壁細線→開口部までをテキストに沿ってトレース。	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～②の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
4	配置図兼1階平面図、2階平面図ー2 ①壁仕上げ→建具、 ②サッシ仕上げ→設備、 ③階段関係までをトレース。	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～③の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
5	配置図兼1階平面図、2階平面図ー3 ①床仕上げ→外交仕上げ→寸法・名称の記入	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
6	断面図、立面図ー1 ①断面・立面の概要。 ②基準線、壁の中心線→開口部階段の記入	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～②の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
7	断面図、立面図ー2 ①屋根・壁天井→開口部の仕上げ	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
8	断面図、立面図ー3 ①各種仕上げ→寸法・名称記入完成。	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
9	矩計図 ①矩計図の概略 ②切断線と見えがかり線の区分け ③縮尺の違い	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～③の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
各課題提出状況、授業態度、出席率の内容を総合的に評価。 課題提出率80%、授業態度10% 出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする		建築製図の基礎を、作図演習を通じて習得します。 建築士試験に対応できる知識と技術を身につけるため。基本を固め、演習を繰り返すことでつけてスキルを上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。			
実務経験教員の経歴	設計業務、施工管理業務に21年携わる				